

映画で学ぶ 環境問題



レッドクリフ Part I & II

(原題：赤壁 / Red Cliff)

監督：ジョン・ウー
出演：トニー・レオン、金城武、チャン・フォンイー、チャン・チェン、中村獅童
制作：中国、香港、日本、韓国、台湾の合作
公開：2008～2009

「存じ中国の壮大な興亡史である『三国志』の内、赤壁の戦いを主軸としたスベクタクル映画。アクション映画で定評のあるジョン・ウー監督の下、国際的なアジアスターが見事な演技を見せてくれました。前後編288時間にも及び、1つ1つのシーンが丁寧に撮影されている、みどころ満載の映画です。

登場人物の中で注目すべきは、日本の国際スター金城武演じる「諸葛孔明（しょかつこうめい）」。

彼は人徳厚い主君、劉備

(りゅうび)のために軍師として活躍するのですが、当初は明らかに負け戦かと思われた不利な少数軍勢を、巧みな陣形と戦術、智恵により、提携軍の大將、周瑜(しゅうゆ)とともに宿敵、曹操(そうそう)を打ち負かします。

痛快さが際立つのは、足りない矢を調達するために「カカシ」をしつらえた船団を相手軍まで送り、10万本の矢を「頂戴」してくるシーン。濃霧の中ではカカシが軍勢に見えることから、相手軍が矢を射ってくるのを見込んでのことです。

ではなぜ孔明は、その日が濃霧になるのを知っていたのでしょうか？ 彼は空を仰ぎ「大蛇のごとき雲は、濃霧のきざし」とニマリするのですが、これは「天文地理、陰陽を知らず、太陽・月・星・風林火山・森羅万象を味方にできる」ということなのです。

同じようなことはクライマックスの火攻めの決戦でも繰り広げられます。西北の風が吹き、明らかに敵軍が有利と思える中でも、孔明は「東南の風が吹くと断言し、その予測通りに勝ち進むというシーン。『雲を読み、風の戦いを予測し、天候を掌握したものが戦いを制す』まさに、古くから続く兵法の教え通りというわけです。

さて今回、「映画で学ぶ環境問題」にレッドクリフを取り上げたのは、「古来より人間が大切に生きてきた自然観測・宇宙観測」をテーマにするためですが、これは前回取り上げた映画「2012」からの流れでもあります。

自然や宇宙の観測を大切にすることが、つまり「自然や宇宙に対して尊敬の念を抱き、人間も、自然や宇宙と調和する」ということではないでしょうか。

「環境問題」の根本は、それを忘れたことから発生しているのではないのでしょうか？ つまり、「自然や宇宙は人間がコントロールするもの」といった傲慢な考え方が、自然破壊たる開発を進め、荒廃を招いたのだと。実際「環境と開発に関する国連会議(UNCED)、アース・サミット」でも、そういったことが主題となっているほどです。

レッドクリフでは、自然や宇宙と調和し、天候を掌握したものが戦いを制しました。それは同時に「人徳」や「正義」の勝利でもありました。現代の経済戦争では、どうなのでしょう？

今まさに、福島で起きている原発問題を見ても、おわかりの通り、自然やエネルギーをコントロールできると思い込んだ東電や日本人は、放射能汚染という危機的な状況を迎えました。

大日化成が関わっているエコの取り組み

東日本大震災が起きて1年以上たつたが、あの大災害を目の当たりにして、私も大日化成も大変大きな衝撃を受けました。元々、地球環境に優しい建設資材のメーカーとして業務に取り組んでいるため、津波で壊滅的に流された沿岸部への支援や、原発の放射能の問題で苦しんでいる地域の方々へのサポートを、どのようにすれば良いか、あらゆる手立てを考えておりました。

そんな中、弊社も所属している地元、大阪府のロータリークラブに寄せられた義援金を基に、何か被災地のためにできることはないかと、声がかかったため、放射能も除去できる浄水装置を福島の各各種施設に設置するボランティアに大日化成が大きく関わることになりました。今回は、その経緯などを紹介したいと思います。

大震災の事後、放射能により、福島原発が放射能の結果、彼の家庭では水に対する不安が止まらないう状態です。特に乳幼児がいる家庭では、子供たちが安全な水を飲ませたいと、毎週約3万円近くの水(ベットボトル)代を使っているとも聞きました。



株式会社エコシステム 代表取締役 政淳 一様

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で対応させていただいておりますスタッフの日常をお伝えいたします。

いつもお世話になっております。大日化成株式会社本社営業部の田中です。営業して、たまにお客様から驚かれる事があるのですが、大日化成の営業拠点は、大阪本社と東京支店の2箇所しか在りません。北海道から新潟県・長野県・静岡県辺りまでの東日本エリアを東京支店が管轄し、それより以西の沖縄県までの西日本エリアを大阪本社で管轄しています。大阪本社の場合、この西日本エリアを更に、「北陸・中部地区」、「中国地区」、「四国地区」、「九州・沖縄地区」の4つの地区に分けて、各営業マが地区担当という形で各地区を受け持っています。当然、遠方への営業を行う場合は宿泊を伴う出張になります。担当する地区によって多少の差はありますが、大体一ヶ月に2〜3回程度、担当地区への出張を行う事になります。よく地元関西地区のお客様からは「会社のお金でいろいろな処に旅行出来ていいねえ。」などと言われたりするのですが、実際やっている仕事の内容は、販売店や施工店の材料のPRや、現場調査、役所や設計事務所への設計活動等、移動距離が増えるだけで、関西で普段行っている営業と何ら変わりません。観光地を見物している余裕なんてほとんど無いのです。(なかなか信じられないのですが…) 出張に行った時の唯一の案



本社営業部 田中 章介



●本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702
●東京支店
〒105-0013 東京都港区浜松町1-2-5
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803



次号も 楽しみにお楽しみに

URL : <http://www.dainichikasei.co.jp>